

様式第2号

視察研修先	青森県八戸市	氏名	太田 芳彦
視察研修項目	八戸市圏交流プラザ「8besu」運営事業について 八戸ブックセンターについて		
<p><市の概要></p> <p>八戸市は太平洋に臨む青森県の南東部に位置し、夏は冷たく湿った東よりの風（ヤマセ）の影響を受け冷涼で、冬は晴天が多く乾燥しています。また、北東北にありながら降雪量が少なく、日照時間が長いことも特徴となっている。</p> <p>地形は、なだらかな台地に囲まれた平野が太平洋に向かって広がり、その平野を三分する形で馬淵川、新井田川の2本の川が流れています。臨海部には大規模な工業港、漁港、商業港が整備され、その背後には、昭和39年の新産業都市指定を契機に形成された工業地帯が展開しています。このため、優れた漁港施設や背後施設を有する全国屈指の水産都市であり、東北有数の工業都市、国際物流拠点都市となっています。</p> <p>平成17年3月31日には、海から拓け、海と共に発展してきた本市と、豊かな自然を有し、果樹やその加工品を特産とする南郷村との合併により、海と山の魅力を併せ持つ、新生・八戸が誕生した。</p> <p>平成29年1月1日には、全国で48番目となる中核市の指定を受け、同年3月22日には、近隣7町村（三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町）とともに連携中枢都市圏を形成し、地域の経済や住民生活を支える東北有数の都市として発展を遂げ、令和元年には、市制施行90周年という節目の年を迎えました。</p> <p><八戸市圏交流プラザ「8Base」運営事業について></p> <p>●八戸圏域が抱える課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏への人口流出・首都圏で継続的に情報発信する拠点が無い・ブランド認知度が低い、しかし一方で、移住先として高いポテンシャルあり！！ <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">経済・文化の中心である首都圏への拠点整備</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知度UP 販路拡大 ・関係人口の増加 <p>●8baseの設置目的</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域産品の認知度を高め、販路を拡大する ②継続的に地域を応援してくれる関係人口を増やす <p>●運営主体</p> <p>八戸市（八戸圏域8市町村による連携中枢都市圏事業として実施）</p> <p>●機能</p> <ol style="list-style-type: none"> ①飲食機能・物販機能 			

②交流機能

・八戸圏域ならではの食の魅力を通して交流を促すため、各種イベントを開催→一般的なアンテナショップとの差別化

◎令和2年9月オープンし令和6年6月 来店者数100万人達成！

達成するために

- ・八戸圏域の山海の幸を使った創作郷土料理と地酒を提供（飲食）
- ・定番から個性的なものまで、各種地場産品をラインナップ（物販）
- ・八戸圏域の魅力を体感できる交流会、PRイベントを開催（交流）

●「8base」が入居する日比谷OKUROJI

- ・日比谷OKUROJIとは

JR東日本グループである株式会社ジェイアール東日本都市開発が、JR有楽町駅から新橋間の高架下空間を活かし、再開発を行った商業施設

●「8base」の営業実績

- ・年に1億円程度（令和4年10月に50万人達成、令和6年6月に100万人達成）

<八戸ブックセンターについて>

●八戸ブックセンターの基本方針

①本を読む人を増やす

八戸ブックセンターは、本を「読む人」を増やすために、これまで出会う機会が少なかった本が身近にある環境をつくと同時に、それを手に取りたくなるような工夫のある陳列や空間設計、読み始めるきっかけとなるようなイベントの開催などを行う。

②本を書く人をふやす

当市は、三浦哲朗という偉大な作家を生んだ土地でもあります。八戸ブックセンターは、本を「書く人」を増やすために、執筆するためのブースを備え、執筆や出版の相談窓口やワークショップの開催などをおこなっている。

③本でまちを盛り上げる

本はひとりで読むものであると同時に、そこから得た知識や情報、感情や思考などを共有することで、より深く楽しむことができるものでもあります。八戸ブックセンターは、本を介したコミュニケーションを生み出す様々な施策を行います。

●取り組みの全体像

- ・八戸ブックセンター

書店の機能を持ち合わせた公共施設で、本の販売という単一の機能に留まらない、本を通じた市民交流及びまちづくりの拠点施設としての3つの機能

①セレクト・ブックストア

テーマ別の陳列などにより、本との偶然の出会いを創出するのと合わせて、本を「私

有」として読む体験を促します。

②「本のまち八戸」の拠点機能

「本のまち八戸」を推進する拠点施設として、民間書店や公立・学校図書館、マイブック推進事業との連携やサポートを行う。

③本に関する企画実施機能

八戸ブックセンターの企画運営方針（基本計画書）に沿って各種企画事業に取り組みます。

●民間書店への連携とサポート

- ・地方の民間書店で取り扱いにくい本を八戸ブックセンターで備えるなど、差別化・補完することで、面的に地域として市民が本に出合う環境を豊かにします。
- ・八戸ブックセンターがハブとなり、民間書店（員）の連携・交流の機会をつくるほか、市外の個性的な書店経営者を招いた勉強会などの機会を通して、民間書店の魅力づくり強化のための支援を行います。
- ・マイブック推進事業（ブッククーポン）や、八戸ブックフェス、パワープッシュ作家などの取り組みを通し、民間書店での本の購入を促進します。

●公立図書館への連携やサポート

- ・ブックフェスなど企画での連携を図る。
- ・絶版本など購入ができない書籍への問い合わせに対応した情報提供を行う。

●学校（図書館）への連携やサポート

- ・市内小中学校を訪問しての「出張ブックトーク」を行います。
- ・市内小中学校を対象とした読書ワークショップの実施や職場体験への協力をする。
- ・学校図書館司書研修会において、こどもの本についての情報提供をします。
- ・高校生対象の読書ワークショップや文芸大会の連携を行う。
- ・八学大、八工大、八戸高専学生が大学・学校図書館に配架する本の選書をするブックハンティングなどを実施します。

●公共・民間施設への連携やサポート

- ・はっちや美術館を中心とした公共施設のほか、民間施設・団体と連携し取り組むことで、企画内容の充実や回遊促進のほか、市内各所で本に触れる機会を提供するなどの相乗効果を図ります。

<感想>

私は忘れておりましたが、以前に視察で伺った市で今回が2度目の訪問でした。感想としては、市が本屋を営む事業に市議会が承諾をしたところが、私には考えられないことでしたが、その辺を聞いてみると、相当もめたとのことでした。ただ、前市長の思いが強く現在に至ったとの説明でしたが、本市では無理だなどの感じがしました。

様式第 2 号

視察研修先	青森県十和田市	氏名	太田 芳彦
視察研修項目	とわだ産品販売戦略について		
<p><市の概要></p> <p>十和田市は、青森県南東の内陸部にある、人口 6 万人の自治体です。平成 17 年 1 月に旧十和田市と旧十和田湖町との新設合併により誕生しました。行政・産業・教育・文化における青森県上北地方の中心的な都市として発展してきた。市の西部には、十和田湖、奥入瀬溪流、八甲田山系など、四季の変化に富んだ美しい自然があります。この地域は十和田八幡平国立公園に指定され、また十和田湖と奥入瀬溪流は国の特別名勝及び天然記念物に指定されています。十和田湖は全国的な知名度が誇ることから、市名の由来となっている。市の東部には、奥入瀬川や稲生川などが潤す田園地帯や、碁盤の目状に広がる中心市街地。この地域のまちづくりは、幕末の安政年間に、新渡戸傳が子の十次郎とともに三本木原の開拓に着手したことに始まります。明治期には陸軍軍馬局出張所が開設され、馬産地として知られるようになっていった。昭和期に入ると、三本木原開拓事業は国営開拓事業として継承され、三本木原台地は県内屈指の穀倉地帯として発展を遂げました。戦後、軍馬補充部が解体されると、その跡地を基盤として新たな都市計画づくりが進められました。近年は新しいまちづくりの一環として、市は、官庁街通りという野外空間をひとつの美術館に見立てた「ArtsTowada」計画を実施し、十和田市現代美術館やアート広場等を整備しました。</p> <p style="text-align: center;">～私たちが創る～</p> <p>現在、当市は を将来都市像として掲げ、</p> <p style="text-align: center;">希望と活力あふれる 十和田</p> <p>その実現に向け、まちづくりを進めております。</p> <p><とわだ産品の販売販売戦略について></p> <p>十和田市の強み・・・豊かな自然と豊富な農産物</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市町村別農業産出額は東北 6 位 ●健康な土づくり <ul style="list-style-type: none"> ・JA 十和田おいらせによる土壌診断に基づいた土づくり→食味が良く高品質な野菜生産 ●豊富な野菜 <ul style="list-style-type: none"> ・生産量日本一のにんにく ・長いも、ごぼうも全国有数の生産量 ●ブランド生産 			

- ・ニンニク、長いも、ごぼう、ねぎ
- ・十和田湖和牛、ガーリックポーク
- ・十和田湖ひめます（地域団体商標に登録）

強みを生かした販売促進

1. JA 及び卸売市場

高品質で豊富な農産物の生産地として、市場流通において高く評価されている

2. 十和田市（とわだ産品販売戦略課）

- ・十和田市全体のブランディングにより、とわだ産品の価値を高める
- ・多様な広報媒体や手段を活用した情報発信・PR 活動
- ・市場流通以外の販売方法におけるとわだ産品の販売拡大
- ・豊富な農産物を生かした加工品づくりの支援

<感想>

十和田溪谷などが有って雪の多いところと思ったが、ほとんど積雪が無い地域でした。全国的に有名な農産物が多くあり、まちは、官庁街通りが有って歴史を感じさせる町並みで、多くの文化人との関りがあったとの紹介があり、感心して視察をさせていただきました。